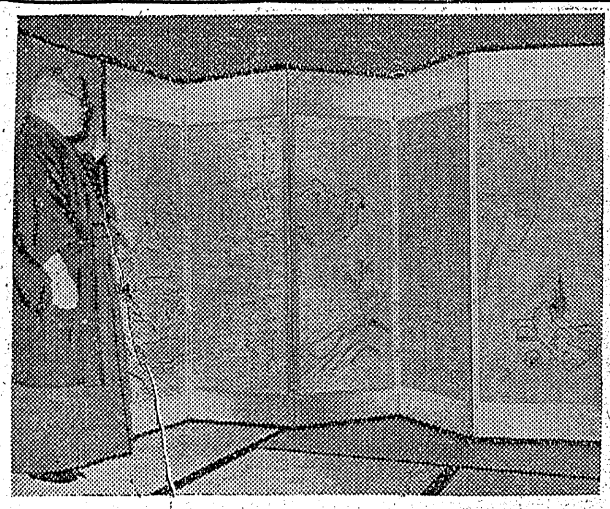
夕刊
いわき民報
発行所 平市田町48 電381 1222 いわき民報社
印刷兼発行人 田原登
編集人

ウエルカム 1953
ブラジル
並木通り 電990

工場誘致は可能か
紙上座談會

綜合開發具體化
縣で調査委會組織の氣運
松本會長

松本久吉氏（磐城地方水利開発期成同盟会長）磐城地方の工場誘致に必要なのは〝用水〟でこの確保が先決である、中南部地方いわゆる泉村附近を中心とした地域を将来の工業地帯にするのが有望だという見地から鮫川の水利開発が強く叫ばれる、すでに県綜合開発局から二回に亘り調査団が来郡、関係町村と打合せ約十億円を要するダム、水路建設計画案を作成した、これはまた山田村―渡辺―磐崎の地域にまたがる炭鉱や地質の本格調査と設計再論が必要だ県では磐城地方は重要な開発地帯として重視し鮫川開発にも乗り気でありすでに県に開発調査委員会を設ける運びに至っているので本年度こそその実現は具体化されるだろう、大きな点から磐城綜合開発を促進するには水利と道路とを併行してやって行かねばならないと考えている



日鑛の賃上妥結
僅かに五%値上げ

日鉱常連の一月以降新賃金交渉は旧冬二十九日の第六回団交で妥結東部石炭鉱業連盟松本専務理事と日鉱常連田畑会長との間に仮協定書を手交した、妥結額次の通りで現行の三割値上げ要求に対し大昭品川黒田、東海の三炭鉱は経営条件が悪く現行の六―七%の値下げとなつたが為替外貨金の値上げのため総体的に五%の値上げとなつた、標準作業金は従来通り
▼大日本勿来 坑内五三〇円坑外三十五円▼大日本磯原五三〇▼日鉱赤井五〇七、三一五円▼日鉱赤井五〇七、三〇八▼櫛形四八〇、二九〇▼小田四七〇、二八七▼大昭四七〇二九〇▼上好間四七〇、二八七▼品川黒田四七〇、二八五▼戸部四六八、二八五▼川尻四五〇二八〇▼山崎四四〇、二八五▼綴伊東四四〇、二六〇▼三松四三五、二六五▼東海（三坑）四三〇、二五五▼〃（一坑）三八七、二三〇▼大野大倉四〇〇、七円）固定資産評価審査委員会委

追豫千四百万
内郷議會 原案を可決

内郷町の十二月定例町議会は旧臘二十九日開き二十七年度追加更正予算一億三千五百万円（既定一億三千五十四万五千百四十三円、追加分千四百四十五万四千八百五十万円、庶民融資斡旋の件など既報の通り十一議案を附議原案通り可決した、追加分の主なる出費は綴小学校新設費七

日刊（除月曜）1カ月金100円郵送126円（週2回四頁建）定価一部（二頁）3円（四頁）6円　（第三種郵便物認可）　いわき民報　夕刊　昭和28年1月4日（日曜日）第2033号

今年は辰年

大蛇を退治かん害救う

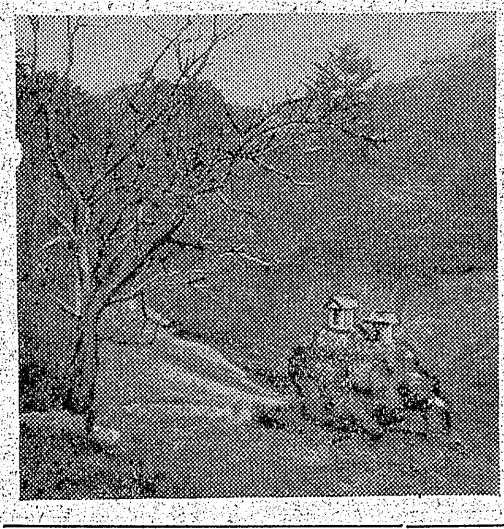
草野村の〝血櫻の由來〟

草野村に伝わる不可思議な伝説『血桜の由来』を一席…

時は慶安のことでした、幾日も幾日も照り続いた陽は遂に旱害を呼んで村の百姓衆を苦難のドン底に陥し込みました、終日じりくと照りつける太陽の下に田も畑も全くひからびて万物はぐったりと枯れ朽ち百姓衆は自然のいたずらの前に只茫然と空を仰いで長嘆息するばかりでした、昼もそして夜も村の鎮守の森からは天を仰ぎ地に伏して雨乞いする百姓の祈りと太鼓の音が高く低く哀調を帯びて里から里へ野から山へと流れました、しかし百姓衆の祈りも効なく雨は一粒も降りませんでした、しかし此の村の北の果て綿谷の里には古くから青々と水をたゝえた寄滝と呼ぶ大きな沼があったのです、今まで最後の鬼の子として固く水門を閉ざしていた寄滝の堰が徐々開かれることになりました溝し切っていた大地に青々とした水が注がれるときがきたのです、大勢の百姓達は鍬音も勇ましく堰を開けましたが水は一向に流れ出ないではありませんか

困り果てた農民はそこから二里程離れた金カ沢の里に居住する水もぐりの名人勘太郎に頼んで水の流れ出ない原因を調査させましたところ、沼底の隧道に大きな大蛇がとぐろを巻いて堰を閉していることがわかりました農民達は勘太郎に其の大蛇を退治して呉れる様にと懇願しました、そこで勘太郎は村正の短刀を口にくわえて再び水中にもぐることになりました、身命を賭して水中深くもぐり大蛇と大決斗する勘太郎は農民の声援に送られてザンブと水中にとび込みました

静かな水面に大きな波もんが広がって行きました、二分たち三分たっても勘太郎は浮き上って参りません、百姓達は勘太郎の身を安じつゝじっと水面を見つめていました、五分もたったかと思われるころ水の底からガボガボと云う恐ろしい水音と共に真っ赤な血が水面に浮き上って来ました、そして其の真っ赤な血潮の中から勘太郎の姿がボッカリと水面に浮かんで来たではありませんか、農民達は大きな歓声を上げながら勘太郎を水面から引き上げました、とうとう大蛇が退治されたのです農民達は涙を流して歓びました、そして水門からは勢よく青滝の水が田圃に流れ込んで行きました、やがて青滝の水面には四斗樽ほどもある大蛇が浮び上って来ました、農民達は附近の土堤に穴を掘って大蛇の屍をねんごろに葬りました、そして其の上に一本の桜を植えました



やがて春が来ました、野に山にきれいな花が咲き桜もチラホラ花をつけ始めました、ところが不思議なことには大蛇の墓の上に植えた桜だけは真っ赤な血の様な花を咲かせたのです、真っ赤な桜、血の桜は今もなお現存し毎年美しい血の色の花を咲かせています、農民達は此の桜を血桜と呼んで過ぎし昔の物語を後世長く伝えて居ります、そして勘太郎の子孫は今も久之浜の里に現存して、尋ねる人に先祖の物語を聞かせてくれています、当時の物語を聞きたい人は久之浜町を訪ずれて勘太郎の子孫から直接くわしいお話をお聴き下さい

（寫真は血桜と勘太郎の祠）

謹賀新年
平市民衆劇場
平映劇場館
ひかり座館
世界館

新年宴會の御席には
出前迅速　電話570を！
マルトモ食堂

平市に欲しいスポーツの殿堂

正式の運動場

ラグビー振興に是非

県ラグビー協会幹事、平ラガーマネージャー　田中幹事

終戦後間もなく平市に綜合グランド建設の話が持ち上った際に平市松カ岡公園西側の水田（地主平市四丁目百沢商店）が候補地として上げられ地主も農地法上の諸問題でグランド敷地に提供してもよいと云う理解ある歩み寄りを見せたが食糧増産の折柄云々と云った内郷方面の反対もありあれやこれやで立消えになってしまった、あれから七年再び平市綜合グランドの開発が叫ばれているが、私はラグビー競技振興発展の見地から開発に対して一言意見を述べてみたい、ラグビー競技は戦後急速に発展し現在浜通りには高校七チーム、一般三チームがあるが、正規の競技場に恵まれず比較的コンディションの良い双葉高と磐高、平工商を使用しているが磐高は水はけはよいが土質が硬く擦過傷が続出するし平工商はこれと反対に土質が柔くて泥土と化し練習の原因となっている、欲を云えば観覧席を完備した優秀なグランドと云いたいところだがそう立派でなくても巾八十五ヤード長さ百六十ヤード位に芝生を植えた正規のグランドが欲しい、現在福島郡山、若松の三市には完備した公式のグランドがあり公式試合をやい

（寫真は田中氏）

六人の新人加う

常磐チーム強化

東北ノンプロ野球の雄常磐炭鉱野球部では六人の新人が加入と一段と強化された、新人は日本プロ球界でも屈指とうたわれアンドラ軍の名二塁手朗石武(二)を艦頭に同チーム三軍で活躍カープを武器とする左腕投手入保守(二)京都大丸の捕手森田政一(二)同溝田良明(三)阪急の好打者二塁手鳥居民治(三)更に専大出身で五尺八寸の遊撃手古賀春人(二)の六選手だ、また常磐を去る選手はプロ球団阪神に嘱望されて入団した捕手石垣、同じく東急には若手で活躍した布施が入団したのをはじめ石川、衛藤が磐城チームに転籍、福井、蔵本が退部したのは一寸淋しい、ことに石垣捕手を失ったのは常磐としては痛手だが溝田、森田がそれぞれ活躍はするだろう、だが阪急から明石二塁手を得たことは大したもので内野は完備の観がある、更に病気のため再起を気づかわれていた大沢主戦投手も来シーズンは夏あたりから登板を嘱されている、トレーニングは一月二十日から二十日間行われる、新監督は坂元中堅手、コーチ谷口氏主将に武笠左翼手があたり新陣容は次の通り（打順メンバー）❶朗石（二塁）❷出沢（右）❸鳥居（一塁）❹坂元、鹿原（中）❺武笠（左）❻古賀（遊）❼溝田（捕）❽森田、永山久保、野口、大沢（投）❾藤峡渡辺（三塁）

江戸さん

740　中島安男

年新賀謹
丸石丸米の自轉車
自転車部分品卸
株式会社　矢野輪業商會
平市才槻小路裏一六六

謹賀新年
昭和二十八年
平郵便局　局長　勝呂幸雄
平電話局　局長　渡辺儀一郎　外職員一同
平電報局　局長　佐藤淳一
平税務署　署長　木本勝　総務課長　千葉惣之助　直税課長　齊藤正男　間税課長　相沢佐内
平市内校長會
福島縣濱通自家用自動車組合　理事長　佐藤三平　石城支部長
ハツヒーミシン特約店　小山ミシン商會　小山洋裁學院　内郷町綴本通り　電話（平）一五七六
株式会社　三國屋印刷所　平市材木町二三　電二三一〇　平市鍛治町二八　電五三三
釜屋　諸橋合名會社　平市五丁目　電九・九九・九九九番
福引の當りは群を抜くと評判　越藤　小名浜　平市
平市内はどこもかしこも福引合戦ですが、賞品がよくてしかも当せん率が最もいゝのは勝越と大好評。末等は百点のほか五百円贈呈の特別抽せん券を差上げています。期間は明五日まで。
☆服地、洋品類、化粧品三百円お買上げの方には五〇円の商品券